



奏 KaNaDe[®] KaNaDe01

¥12,000 (4個・税込) Amazonにて販売中

●材質：特殊開発の樹脂+特殊フェルト ●サイズ：50mmφ×15Hmm
●質量：約55g (1個)



中華鍋のような混合機で8種の粉をまんべんなく混ぜ合わせる。金井社長が自作したもので、斜めにしているのは、洗濯機のように攪拌をスムーズに行うため



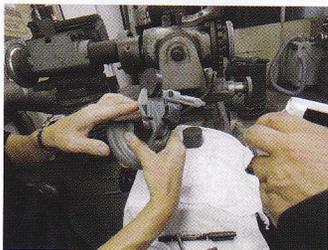
均一な混合ができれば、インシュレーター1個分の粉末素材を0.1gの精度で計量



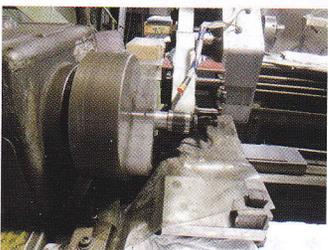
穴あけ加工を行様子



「KaNaDe01」の金型。ここに粉末を入れて加熱圧縮する



フェルト面をざらざらに、反対面はピカピカの鏡面に研磨する。マイクロメーターで計ると、ピタリ1/1000mmの誤差に収まる



仕上げは外周を3段階の研磨で、じっくり仕上げている



右が(株)金井製作所社長の金井隆雄さん。左は筆者

さあ、ハイライトの研磨はどうか。フェルト面をざらざらに、反対面はピカピカの鏡面に、という仕上げの違いで音をチューン。砥石の回転と微妙な押しつけ方は神業だ。驚異的な均一性で、マイクロメーターで計ると、ピタリ1

千分の1の誤差精度で磨き上げる仕上げの違いで音をチューニング

「たこ焼きですよ。精密なたこ焼き。熱と圧力を同時にかけるのだが、ぐっと加圧して数分圧縮するのだが、温度と圧力の僅かなズレも許されない。また最後に比重まで測っているのには驚いた。

シユレーター1個分の粉末素材を4つ紙コップに入れ準備しておく。「プレス機、見ますか?」。手袋をはめた小林さんがマシンへと進んだ。4つ穴があった金型だが、これはインシュレーターが4個1組のため。その穴に漏斗で粉を入れ、台ごと押し込んだら、上から4本の棒が降りてきた。

「奏インシュレーター」の3モデル構成である。

「奏インシュレーター」の3モデル構成である。全体のバランスを整えつつ、本

実は、全ての楽器に命が宿る「KaNaDe」シリーズにも兄弟モデルが誕生していた。従来の「KaNaDe01」を「スタンダード」として、十字の溝幅や仕上げをチューンした「ワイド」と「アニソン」

「奏インシュレーター」の開発拠点は、群馬県館林市にある小林さんの自宅である。ご覧のシステムが試聴用で、色々なソフトを聴きながら、インスピレーションが湧くそうだ。

徹底した試聴が最終工程 3種類の兄弟モデルも登場

「奏インシュレーター」誕生の地を訪ねる

「1000mmだった。「やりながら品質管理するんです!」。最後の外周研磨は3段階で、じっくり仕上げていく。超微細なサンドペーパーだが、水をかけながら包丁を研ぐようにマシンが動くのは実に美しい。



「奏インシュレーター」の開発拠点となっている。館林市にある小林さんの自宅試聴ルーム



「KaNaDe01」の「スタンダード」として、十字の溝幅や仕上げをチューニングした「ワイド」と「アニソン」仕様も登場

訪問であった。私なら、濃厚なジャズヴォーカル専用モデルが欲しい。オーダーメイドも夢でないな。というわけで、さらなる可能性に注目できた

来のあるべき実在感を再現」というのが、私の聴いた「スタンダード」への評価だとすれば、確かに「ワイド」はステイジが広い。密度は薄まらずに、奥行きや高さ方向を含めてぐんぐんと音場が拡大。よい意味でのスベクタクル感が生まれ、クラシックのオペラやシンフォニー、ジャズのビッグバンドなど、実に爽快で気持ちのよいサウンドとなった。一方の「アニソン」はキラキラと明るく、ビート感も上々。テンションが高まり、電子音楽や打ち込み系にナイスマッチだろう。